

○ 台風の特異日と台風12号の接近について（9月1日12時現在）

台風10号が東北地方から北海道にかけて大きな被害をもたらしましたが、やはり早めの情報提供と避難が重要です。また、気象庁からの情報提供を正しく理解し、どう防災に生かしていくのかが大切になります。

台風12号が9月1日（防災の日）に発生しました。今後、九州方面に向かう可能性が出てきましたので、警戒が必要になります。

9月は宮崎にとっても台風シーズンになりますので、今回は台風の襲来の特異日と12号の影響を解説します。

1 台風の特異日について

昔から210日（9月1日前後）は野分けに警戒する言い伝えがあります。

実際に9月に台風が接近・上陸することが多く、過去にも大型台風が宮崎に大きな被害をもたらしています。

過去の台風から日本に接近・上陸する日が特定の日に偏る傾向がありません。過去の台風から日と事例を紹介します。

（1）9月17日 第2室戸台風 カスリーン台風 アイオン台風

（2）9月26日 洞爺丸台風 狩野川台風 伊勢湾台風

以上が日本大きな被害をもたらした代表的な台風ですが、このほかにも9月11日（平成13年、27年）もあげられます。

（3）宮崎県の特異日・・・9月3、4、5日

上記した日本の特異日もありますが、最近の傾向として宮崎県では9月3、4、5日に大型台風が襲来しています。平成5年の13号（風台風）、平成17年の14号（豪雨）があげられます。

今回の台風12号も特異日に接近する可能性がありますので、警戒が必要になります。

台風の発生、進路は、毎年変わってきます。それは、日本付近の気圧配置によって変わるもので、以前説明しましたが、今年の場合は、太平洋高気圧（サブハイ）が日本付近で、北からの寒気（寒冷渦）によって、東西に分断され、その隙間が東日本にできていたため、そこに台風の進路が集中した形になっていました。その後、サブハイが例年の位置（関東の南東方海上）になってきたことで、今後は、フィリピン東方海上から沖縄～九州を通過するパターンになってくることが予想されます。

## 2 台風12号の進路と宮崎への影響

### (1) 予想進路

9月1日12時現在の気象庁の予想進路では、台風12号は、今後発達しながら、進路を北寄りに変え、奄美大島～鹿児島県～九州山地の西側(熊本)～福岡～日本海西部の進路となっています。ただ、予想進路の幅がまだ広く、日向灘～九州西岸の東シナ海となっていますので、まだ、どの程度影響するのかが分からない状況です。

### (2) 勢力

9月3日9時時点では、九州のすぐ南海上で975 hPa、最大風速30 mが最盛期と予想されています。このレベルであれば中心付近、その東側で影響を受けることとなります。小型でコンパクトな台風になります。ただし、台風が通過する海域の海水温度が31度と平年よりもかなり高い状態になっていますので、急速に発達する可能性(950 hPa程度?)があります。

### (3) 影響

気象庁の予想進路に基づいて説明します。

予想進路の中心を通過した場合

宮崎地方は、台風の東側(危険半径)に入りますので、影響がもっとも強くなります。暴風圏に入り、風雨が強くなります。特に風に対する警戒が必要になります。

予想進路の西よりのコースで東シナ海を北上する場合

鹿児島、熊本、長崎地方がもっとも影響を受けます。宮崎の場合は、台風が小型のため、強風圏に入りますが、暴風のレベルまでは予想されていません。むしろ、大雨に対する警戒が必要になります。ただ、小型台風のため大雨が降る時間帯は短いこととなります。

予想進路の東よりのコースで日向灘沖を北東に進む場合

宮崎の影響は、少ない傾向になります。大雨も台風が種子島付近に北上してくるまでで、雨量もやや少ない予想になります。

このように、台風の予想進路によって、本県への影響が大きく変わってきますので、常に最新の情報を入手してください。

総合農業試験場企画情報室 村岡精二(気象予報士)